

緒 言

高岸 憲二

群馬大学大学院医学系研究科医科学専攻器官機能制御学整形外科

厚生労働省が行っている国民基礎調査によると、日本国民が悩んでいる症状トップ5には運動器の症状である「腰痛」、「肩こり」および「手足が痛む」が男性、女性ともに入っている。これらの患者は主に整形外科医が治療しているが、病院もしくは診療所に来院しない患者についてはどのような経過をたどっているのか知ることはできない。また、各整形外科疾患の natural history については疫学調査が十分でないために不明なことも多い。

腱板断裂を例にとると、私が大学を卒業したころ、腱板断裂は肩への外傷後に発症して肩痛ならびに挙上障害が起こる、二腱以上の腱板断裂に対しては腱板修復術を行うと記載されていた。しかし、肩関節造影で腱板断裂が認められても疼痛は軽減して再び挙上が可能となる患者や、以前から腱板断裂があるにもかかわらず、さほど日常生活に支障を来していない患者も外来で経験する。

われわれが群馬県の山村で行っている検診では、超音波検査で50歳以上では20%以上に腱板断裂があり、そのうち2/3は無症候性であることがわかった。今までの治療法は、整形外科に受診した患者の治療経験の蓄積によって確立されてきたが、一般住民を対象とした検診を行うことにより、それぞれの患者はどのくらいいるのか、どのくらいの患者に症状があるのか、発症に影響する要因は何か、症状が消失する要因などを明らかにすることが可能となる。

本シンポジウムに執筆されている先生方の施設では、骨粗鬆症、ロコモティブシンドローム、肩関節疾患、脊椎疾患、膝関節疾患などの検診を長年にわたって行われており、各施設から発信される報告により整形外科医のみならず、行政においてもこれらの整形外科疾患に対する考え方が大きく変化しつつある。シンポジストはそれぞれの分野で高名な方ばかりであり、ぜひともご一読して明日からの外来診療に役立てていただきたい。